

認定看護師の
活動について

認知症看護 認定看護師の 活動について

5階北病棟 副看護師長 浜口 美穂

私は、認知症の方が混乱せずに安心して療養生活を送れ、入院前の認知機能や日常生活能力を維持したまま退院できるような看護を行いたいと思い、2013年に認知症看護認定看護師の資格を取得しました。認知症看護認定看護師の役割は、認知症ケアの実践と病院内のケア体制作り、また興奮や幻覚・妄想、混乱などの症状(認知症の行動心理症：BPSD)の予防や緩和を行う等の役割を担っていますが、実際、当院でどのような活動を行っているか紹介します。



●病棟での看護実践

現在、私は回復期リハビリテーション病棟に勤務しています。当病棟に入院されている認知症の患者さんや認知機能低下を認める患者さんに対して、安全で安心した療養生活を過ごせるよう療養環境を整え、頭や体にとって刺激がない生活にならないように援助しています。刺激のない生活とは、食事や排泄以外はベッドで寝たままのような状態を言います。具体的には、ベッドサイドに患者さんが寂しくないように家族の方に家族やペットの馴染みの写真を持ってきて頂いたり、時間の感覚を忘れないためにカレンダーや時計をセッティングする。また、患者さんが集まってのラジオ体操や相撲観戦、塗り絵や貼り絵を行ったり…などです。入院生活は認知症の方にとっては心身ともに活動機会が減縮しやすく、認知機能や日常生活能力の低下を来す環境になりやすいため、患者さんが自分のペースで療養生活を生き生き過ごすことができるよう、病棟スタッフと共にケアに取り組んでいます。

●認知症ケアチームによる院内ラウンド

認知症ケアチームは、認知症の患者さんや認知機能低下を認める患者さんが、受けるべき治療を受け、混乱せずに安心した療養生活を過ごせることを目的に活動を行うチームです。様々な視点から相手を理解し、具体的な援助が検討・実践できるよう、メンバーは医師、精神保健福祉士、認知症看護認定看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士と、多職種から構成されています。このチームは、今年2月に結成されたばかりのチームです。毎週火曜日に各病棟をラウンドしています。そこでは次のようなアドバイスをを行っています。

- ①患者さんが今困っている事は何か
- ②それを解消するためにどう対応していけばよいか
- ③療養環境の調整や患者さんへの接し方
- ④薬剤の調整方法

患者さんが入院生活の中で辛い思いをさせない様に、またスタッフの認知症ケアの質が向上できるように、認知症ケアチーム一丸となって活動しています。

最後に、私は患者さんは『人生の大先輩』と思っています。人は一人ひとり尊重され大切にされる存在で、認知症を患っていてもそれは変わりません。辛い思いをされている患者さんの思いを少しでも理解できるように、そして、患者さんとそのご家族、スタッフが笑顔で過ごすことができるように、認知症ケアの実践に取り組んでいきたいと思っています。

